

## 健康成人ボランティアの募集

～下歯槽神経近位伝達麻酔法による麻酔奏効範囲とMR画像による解剖学的評価～

### 【研究の目的・背景】

局所麻酔は、むし歯や歯周病での痛みを伴う治療、抜歯に欠かせません。そしてもっとも多く用いられているのは、小さい範囲の局所麻酔に適した浸潤麻酔です。しかし、浸潤麻酔を親知らずの抜歯や広い範囲の治療に用いるときは欠点・制限がたくさんあります。

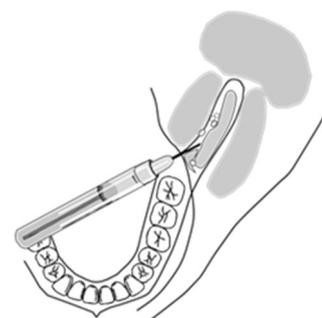
それを補完するものとして、下顎の手術に対して下歯槽神経伝達麻酔法が知られています。その方法は多くあり、従来から使用されている下顎孔伝達麻酔法と2000年に発表された下歯槽神経近位伝達麻酔法の2種類の方法を使用して、麻酔が効いている範囲や局所麻酔薬がどのように組織内に分布しているかをMRIを使用して評価します。

### 【研究方法】

近位伝達麻酔法による下歯槽神経伝達麻酔は、31G、12mm注射針を、下顎孔伝達麻酔は、30G、21mmの注射針を使用して行います。下顎孔伝達麻酔法・下歯槽神経伝達麻酔法でのあごの骨や歯の麻酔が十分に効いたとき、下唇の腫れぼったい感じや知覚の鈍い感じが現れます。そこで、下唇での知覚の鈍麻によって十分に麻酔効果が得られたことを確認した後、歯科用のピンセットや探針を用いて前歯から大臼歯にかけての頬側歯肉と頬粘膜を刺激して、知覚鈍麻領域を確認し、記録します。その後、MR撮影を行います。



下顎孔伝達麻酔



近位伝達麻酔

### 【募集対象および人数】

本研究の趣旨を理解した健康成人のボランティアの方々 10名

### 【募集期間】

本大学医学部倫理委員会承認後～2019年 月 日

### 【実施責任機関・主任研究者（臨床研究の統括）】

近畿大学医学部麻酔科学講座 月本 翔太

大阪府大阪狭山市大野東 377-2

TEL (072) 366-0221 (代表) 内線 : 8642 または 3238

FAX (072) 365-7161

参加を希望される方・本研究に関する問い合わせ等がありましたら、上記までご連絡下さい。

なお本研究で得られた個人情報は規定に従い厳重に取り扱います。

また本研究で得られた結果は個人が特定できない形で、学会発表・論文発表させていただきます。



近畿大学  
KINDAI UNIVERSITY